

3. 「日英語の主格照合について」

野地美幸 （上越教育大学教官）

本発表では、主格名詞句の現れ方が日英語間で異なる現象を提示し、それはいかなる理由によるものなのかを検討する。

日本語には「象が鼻が長い」のような多重主語構文が存在するが英語には存在しないことから、単一の時制節内において日本語は英語とは異なり複数の主格照合（主格名詞句の認可）が可能であるとされる。本発表では、これが主格照合に関して日英語間に見られる唯一の違いではなく、主格照合が英語では義務的であるのに対して日本語では随意的であるという違いもあることを主張する。これにより、英語には見られない格の交替が日本語で可能となること、例えば「太郎は花子の洋服がとても素敵だと思った」と並んで「太郎は花子の洋服をととても素敵だと思った」が可能であることなど、が説明されることを見る。

また、上記の日英語の違いから日本語を母語とする英語学習者に起こりうる問題につ

いても触れたい。なお、こうした意図から、考察の対象とする日英語の現象はいずれも、日本人に英語を教える際に踏まえておきたい言語事実を中心に選択を行っている。